

令和6年3月12日

朝来中学校区 保護者 様

朝来市立朝来中学校
読書教育推進委員会

第2回読書アンケート結果及び分析と令和6年度の事業計画について

第2回読書活動推進事業アンケートにご協力頂き、ありがとうございました。

つきましては、アンケート結果をお知らせするとともにアンケートを分析し、今後の事業計画についてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1 児童生徒のアンケート結果より

6月に実施したアンケート結果と同様の質問内容においては、大きな変化は見られませんでした。児童生徒の不読率や読書時間の減少が学校でも家庭でも割合が高くなっています。読書活動推進事業に取り組んでいる中で、このような結果になったことは残念であります。本事業によって、児童生徒は本を手にする機会は確実に増えていますが、それが読書量の増加に結びついていないのは、取組に不十分な部分があったと考えられます。例えば、お薦め本紹介カードを校内に掲示するだけにとどまっており、友人や保護者にお薦め本を薦める機会や方法を具体的に示せなかったことなどが挙げられます。次年度はアンケート結果から、本年度と同じ取組であっても一歩踏み込んだ計画を立案し、不読率の減少を図っていきたいと考えています。

今回のアンケートでは、読書による価値観の変化や思考面の変化について質問しました。読書によって新たな価値観に出会った児童生徒が約6割。新たな思考を感じとれた児童生徒が約5割あり、読書活動が知的活動を増進し、人間形成や情操を養う上で重要な活動であることが再確認できました。この部分をさらに伸ばせる取組を実践することで、生涯に渡って読書に親しむ態度に繋がると考えています。

本年度の取組で印象に残っている活動では、「読み聞かせ」「お薦め本紹介」「ポップ作成」などに多くの児童生徒が次年度も取り組んでみたいと回答しています。これは、単に「本を読む」という活動にとどまらず、本を通して人との交流を望んでいると考えられます。児童生徒が望む活動を継続して行うことで、より本への興味関心が高まることが期待できます。

2 保護者のアンケート結果より

保護者も児童生徒と同様に6月に実施したアンケートと同様の質問内容においては、大きな変化は見られませんでした。1回目のアンケートで「お子さんが読書する時間が増えて欲しいと思いますか」の質問を2回目のアンケートでは「お子さんが読書する時間は増えたと思いますか」に変えて質問しました。その結果、保護者は読書して欲しいと願っていても、児童生徒の読書する時間が増えていない反比例の結果となっています。この結果は保護者の期待の高さの現われでもあり、保護者の期待と児童生徒の読書量増加が比例に転じる取組を求められていると言えます。

保護者から生徒へのお薦め本や児童生徒から保護者へのお薦め本も一定の成果が見てとれたもの、お薦め本の紹介にとどまっており、児童生徒のアンケート結果で前述したように取組の工夫を図ることで本を読む機会の確保に繋がると考えられます。

保護者の記述アンケートの中には「大人が本を読む機会が減った」「大人も携帯を触って過ごしてい

る」など、読書に親しみにくい環境を嘆いている記述が多く見られました。一方で「あさご森の図書館に頻繁に誘っている」「リビングに本棚を作っている」など積極的に読書に親しむ環境を作ろうと努力されている保護者も多くありました。

3 教職員のアンケート結果より

教職員のアンケート結果は、児童生徒の本への興味関心が高まったことや先生自身の読書量が増えるなど、読書活動推進事業に肯定的な意見や取組の成果を実感する結果が多くありました。教職員の肌感では、本事業を通して児童生徒の読書熱は高まっていると思われませんが、児童生徒のアンケート結果とは隔たりがあります。読書量の多い少ないを感覚で測定しているため、次年度は読書量の可視化を行い、客観的な数値をもとに事業の成果が実感できる取組が必要と考えています。

4 令和6年度の具体的な取組

(1) 中学校で行う取組

- ①全職員が各教科等で学習した学習内容を図書室の図鑑や写真集などの資料を用いて授業で紹介し、図書室の本を積極的に活用する。
- ②読書活動に関する公開研究授業を実施する。
- ③文化祭意見発表のテーマに読書活動を取り上げ、全校生が深く考える機会を設ける。
- ④玄関に設置しているディスプレイに校区小中学校教職員からお薦め本の紹介を学期ごとに行う。
- ⑤毎週土曜日の新聞に掲載される本のコーナーの記事を生徒玄関に掲示する。
- ⑥読書感想文作成前に、課題図書や読みたい本をタブレットで検索する。
- ⑦図書室の利用時間を確保するため、各学級月1回は朝の学習タイムの時間に図書室へ移動し、本の貸し出しや返却を行う。また、その際に学級文庫の選書も行っていく。
- ⑧生徒用タブレットに読書量を可視化するためのアプリの導入を検討していく。

(2) 中学校生徒会で行う取組

- ①学期に1回「お薦め本カード」を生徒が作成し、生徒玄関に掲示する。
- ②図書委員による読書量可視化プロジェクト（仮名）を立案、実施する。

(3) 家庭と連携した取組

- ①生徒から保護者、保護者から生徒へお薦めの本紹介カードを作成する。その際にお薦め本紹介カードに保護者（生徒）からのメッセージを記入する欄を設け、両者が本を手にする機会を増やす。
- ②読書活動推進事業の趣旨や取組内容について学校便り・HP・PTA会報で知らせる。

(4) 中学校区内の小学校と連携した取組

- ①読書活動に関する公開研究授業に小学校教職員の参観を呼びかける。
- ②中学生がポップを作成し、小学校に届け、ポップの掲示を行う。
- ③中学生による小学生への読み聞かせを行う。
- ④小学校、中学校で取り組んだ読書活動に関する掲示物を小中で共有する。

(5) あさご森の図書館と連携した取組

- ①あさご森の図書館に小学生・中学生・保護者・地域住民等が協同で作成した掲示物を展示し、利用者の交流を図る。
- ②あさご森の図書館の職員に学校の図書室の運営方法や施設、蔵書等について意見を仰ぎ、図書室の改善を図る。